

令和元年度 卒業式 答辞

日差しが日一日と暖かさを増し、桜のつぼみも色づき始め、心浮き立つ季節がやってまいりました。

本日は、私たち卒業生のために式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、ご多忙中の中、ご出席賜りました学長を始め、先生方に卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

思い返せば入学式の日、私たちはまだ名も知らぬ仲間と共に、これから始まる学校生活への大きな期待と不安を抱えながら、式場におりました。あの日から瞬く間に時は過ぎ本日私たちは晴れて卒業の日を迎えております。

様々な行事がありましたが、短大生活と聞き、思い出深いことは日々の学校生活です。授業に間に合うように駆け登った坂道、足が痺れながらもお点前を練習した茶道室、冗談も真剣な話も全て聞いてくださった先生方、顔を合わせれば話の尽きることの無い友人たち、これら全てが短大生活を彩ってくれました。また、私にとって初めての寮生活は大きな不安とともに始まりましたが、たくさんの学友と打ち解けることが出来、本当に楽しいものとなりました。二年間、共に生活した寮生に格別の感謝を伝えたいです。

楽しかったことが多く思い出せますが、そればかりではありませんでした。大変だったこと、苦しかったこと、反省したいこと、それらは忘れるべきことではなく、記憶に留めておきたいことばかりです。経験した一つ一つが自分の糧となり「なりたい自分」に成長させてくれると信じているからです。

このように学生生活の思い出が尽きませんが、そろそろお別れの言葉を申し上げます。

これまで私たちを支えてくれた先生方、ここにはいらっしゃいませんが、家族のみなさん、ありがとうございます。叶えたい夢のために頑張る私たちを、電話で励ましてくれたり、しっかりしなさいと厳しく諭してくれたり、様々な形で応援してくれました。挫けそうになった時もありましたが、「応援してくれる人がいる」ということが私たちを元気づけてくれました。これからも私たちは前を向いて進んで参ります。

卒業生を代表し、ここでもう一度感謝の言葉を申し上げ答辞とさせていただきます。ありがとうございました。

令和2年3月7日

卒業生代表 国際コミュニケーション学科2年 林 なぎ